



糊などで貼り付けられている部分がめくれない箇所あり

市仕並例類集

百中式壹

Faint bleed-through text from the reverse side of the page, including characters like '市仕' and '例類集'.

古今類聚

消印
古今類聚

古今類聚

消印
古今類聚

取本

古今類聚

古今類聚

古今類聚

古今類聚

武一石目形

一 此は重なる味筋の薄方取平方中歌

武一 佐渡古歌の浪言結言付合中上

類評後

武一 薩列の海峽の海峽のつる巻

海峽の海峽後

武一 於佐列の海峽の有る席五平方

の海峽後

武一 京都所事以程方同心地改之

平巻の海峽後

五 一箱鑑表正法並箱一版有評後

六 一箱鑑表刑正一版有評後

七 一箱國書流正一版有評後

八 一箱日光市物家集正一版有評後

九 一箱鑑編稍合某前及出史正一版有

一箱鑑編正法並箱一版有評後

十 一箱鑑編正法並箱一版有評後

一箱鑑編正法並箱一版有評後

十一 一箱鑑編正法並箱一版有評後

一箱鑑編正法並箱一版有評後

十一 冊後園等集等村多居集の愛死件
吟味 後有件候

十二 玄介の由江至御之上江坂
後有件候

十三 松前中後宮進敷の由榊場
後有件候

十四 盗賊の合満屋等満書由告
後有件候

十五 花の坊方村在病入敷の上中集の盗賊
由江至後有件候

十六 密書、宗家遠古史由坊方白状
後有件候

十八

本日本秋之一等車由吉南成
有伴後

十九

本日本秋之一等車由吉南成
有伴後

御座候

享和二年庚辰

大坂町奉行宛

一 石心之唐物賣買の事一 以上御出立

節に御取次申上之候旨御座候

去々去年十月十九日付在平儀迄書付度候

事石心之唐物賣買の事御座候旨御座候

奉十二日付迄御座候旨御座候

之亦未見之不足未先之不足及
子速之亦早于海而冷海之上至行也
之得書也之是書也之按實は四也の
有之由沙法取り少之是又不足記實也
子之由而之海也同類なりとも至
四年一之是仇之不足記實也
後有之海人有之由也一件之海也
上之海也之海也之海也之海也之海也

代令高之海也上海人曰海也
及之同教月也海人曰海也
皆之海也海也一件之海也
相允之由積高一刻也海也
極之月也海也之海也之海也
海之海也一件之海也之海也
海之海也之海也之海也之海也
町也海也之海也

此後天明八年奉^レ上書有^レ石山行^レ物
有^レ振^レの^レ同^レ於^レたりも^レ物^レ制^レの^レ
強^レ強^レ上^レを^レ物^レを^レ言^レり^レ有^レ
古^レ在^レ又^レ云^レ一^レ紙^レ六^レ紙^レ令^レ少^レ金^レ亦
たりも^レ物^レ人^レ中^レ口^レ言^レお^レ教^レ是^レ云^レ
有^レ物^レを^レ石^レ山^レを^レ言^レの^レ口^レ言^レ物^レを^レ下
有^レ一^レ物^レ石^レ山^レを^レ言^レ亦^レ言^レ買^レ取^レし^レ紙^レ
形^レを^レい^レあ^レし^レ物^レを^レ別^レを^レ言^レ亦^レ言^レ改^レた

お^レ言^レ物^レを^レ言^レ亦^レ言^レ物^レを^レ言^レ
何^レ種^レの^レ金^レ言^レる^レも^レ言^レ中^レ亦^レ言^レ
自^レ言^レ物^レ人^レも^レ有^レ紙^レを^レ別^レ毎^レ言^レ
以^レ紙^レを^レ言^レ中^レ一^レ言^レ亦^レ言^レ
亦^レ言^レ之^レを^レ言^レ物^レ人^レも^レ言^レ
亦^レ言^レ物^レ人^レ有^レ言^レ亦^レ言^レ
物^レ人^レ中^レ口^レ言^レお^レ教^レの^レ言^レ何^レ種^レ
金^レ言^レの^レ言^レ石^レ山^レ言^レ物^レを^レ言^レ

お早ーお辨代金言お返り後お心
酒言の候も子間不元言守徳も
軍陣人子お増箱初吟味お分り
以上五智南産お返り後徳地
そ和も格別大金も言有る旨
お返り言不元後之旨言一五智
お返り言金六一件言有る旨お辨
之旨言お返り言後之旨言有る旨

五月

附 鱈

お書面通河部播磨言に
お返り言旨言言言言言言
五月言 保定言

和 糸女正

八月言の旨言御言
河部播磨言言言言言

不心之唐物賣買方解令之口出雜貨
此中亦有天明申年お觸の款有之
以方中言之刻合未お定之主は松江及有
之代町奉行お觸の款福島丹後等は概
勤及申す御上之口出お世に毎
次第不心之唐物お扱は及御出の
金種之上も奉行おと御出の口出
此中亦有お觸の款有之方解令

中口言解は及及令お行程之口出も
不觸御出の口出高五口出下口出及
且又一件お味をとりし口出も不觸及
此中亦有及御出の口出及之
後老口出御出の口出及之口出及
及及之御出有之口出お味及之口出
之上も奉行おと申す口出及之口出及
此中亦有及御出の口出及之口出及

方之及津後仕流石神氏人有之且良
此獲多矣方之方之津東兼高松兵衛
口方之及津高之方之高之方之高之去
亥十月中大坂所事以相問書句之良
中事之及津高之方之高之方之高之
石心之唐物所人々々之方之高之方之高之
方之及津高之方之高之方之高之
云津津東前在屋之也及津高之

及尔後稗本極行實有重得也方之高
次高也合々之相除之合々之方之高
云々之及津高之方之高之方之高之
及合々之及津高之方之高之方之高之
稗本極行實有重得也方之高之方之高之
方之高之及津高之方之高之方之高之
一取之及津高之方之高之方之高之
云々之及津高之方之高之方之高之

奉故右馬之執事也先年言彼地也其合
以均其後之難變也其又其後今一應是
合而書之及之而上其方之始末委用
其元其市之治是之也其向後其方之
次第其後難中上而一其個其生其未
以道也其也其方先合取之一件之
其書之其年中其相執之不始其後也
其物別之其合之其方其始後之其也
其也

三

奉故

子十一

附錄

此書向之執事也其始後也
其始後也其始後也其始後也
子十一 序是也其

和末也

十二月廿二日之改元佈告

河内攝磨寺中書

石印之筆種敬龜甲未嘗買也於此一件
傳今之由也應天口口口口口口口口口口
町平乃在河内書有每觸書字もも書
而東平神也也也也也也也也也也也也
極重也極重也也也也也也也也也也也

云云

定去去年十月申在河内也也也也也
去年方之也也也也也也也也也也也也
也也也也也也也也也也也也也也也也
也也也也也也也也也也也也也也也也
也也也也也也也也也也也也也也也也
也也也也也也也也也也也也也也也也

十二月

連名

河内攝磨寺度

三

市江道系冷味筋心博方百斗方市款

[Faint bleed-through text from the reverse side]

[Faint bleed-through text from the reverse side]

Handwritten text, likely bleed-through from the reverse side of the page.



享和三年申渡

佐渡守の向

一 白浪言 登り下り付合り上り白浪降後

別紙佐渡守の向 申渡之旨 七年後
後一件 申渡之旨 申渡之旨
或人 自南着 申渡之旨 相川構
北着 申渡之旨 申渡之旨 定例

凡今之世... 右神... 此... 華... 依... 希... 此... 一... 一...

此... 一...

庚子十月

洋海... 海

海一... 金...

文化元年春出渡

新訂月日

武一流人吉善の徳に及有律後

中御書及可月代出勅守出定高
四攝廿二日を徳中廿十部高和物新物
徳東上之四月に薩列徳上使如高
下如十部高印或人徳を核高高買

波しゆのた吟味得内重三山とのた舟外
徳上高善の方之徳成り中徳高舟は後
流人吉善の徳成り大坂町在り高善
高薩列之次高徳成り高善有来
五年と云徳上高善の核中一徳高
役所不物右之人一人のた一目高春
高徳上高善の核中徳高四攝高徳中付
ゆきの舟高来高善高お徳高出帆

昨、短くもおぬれ、及、舟、矢、後、薩、摩、列、島、
至、る、所、船、中、有、中、津、津、又、と、京、都、町、
在、り、し、り、と、神、田、同、在、り、し、り、後、松、島、
下、江、島、也、去、余、り、短、く、も、お、ぬ、れ、と、強、名、
雖、も、變、事、及、り、舟、列、所、事、以、り、其、時、
書、付、字、を、在、入、出、被、見、お、同、じ、り、
は、及、十、節、高、松、和、物、と、薩、摩、列、島、此、り、
出、る、所、に、一、度、お、寄、り、た、り、し、り、の、言、彩、也、

同、由、お、持、登、り、同、程、く、一、度、お、寄、り、た、り、
高、松、列、島、の、舟、之、人、其、薩、摩、列、島、に、
三、日、在、る、所、有、り、し、り、舟、中、に、京、都、町、
在、り、し、り、舟、中、に、京、都、町、又、高、松、列、島、
在、り、し、り、舟、中、に、京、都、町、

五月

降、降、と、海、風

新に成り上り當年に為りて成りて此に
若くは十部を情和物新物成り林を
言國業此部一同薩列橋下を志す中
成りて玉河成り十部情和成人
成りて板河成り成りて成りて成り
一件に内主之成りて成りて成り
成りて薩列成りて成りて成り
成りて成りて新物成りて成りて成り

薩列成りて成りて成りて成りて成り
成りて成りて成りて成りて成り
成りて成りて成りて成りて成り
成りて成りて成りて成りて成り
成りて成りて成りて成りて成り
成りて成りて成りて成りて成り
成りて成りて成りて成りて成り
成りて成りて成りて成りて成り
成りて成りて成りて成りて成り
成りて成りて成りて成りて成り

を為すは其の六國中一の在路に在り
之を右に在り上は其事は其の四と
梅田同様に成りて有るは其の五に在り
順に連なり奉は其の四に在り
之の在路に在りて四に在り
此の在路に在りて其の五に在り
其の五に在りて其の六に在り
其事は其の四に在りて其の五に在り
其事は其の四に在りて其の五に在り

其事は其の四に在りて其の五に在り
其事は其の四に在りて其の五に在り
其事は其の四に在りて其の五に在り
其事は其の四に在りて其の五に在り
其事は其の四に在りて其の五に在り
其事は其の四に在りて其の五に在り
其事は其の四に在りて其の五に在り
其事は其の四に在りて其の五に在り
其事は其の四に在りて其の五に在り
其事は其の四に在りて其の五に在り

幸支交方獨際九之わたりて六
石取波百及此門續其年又々
途取中其わると二重と其わり橋口
操智海を始と人敷甲乙出来仕
中知く難念も其振了り其舟
かく其年と承く其わり始其来表
一統く途取也其延其方大坂町其行も其
故金屋其方中其舟其文其海其國其其其

文化元子奉也後
依後其の同

二 一 於依列其房との有く其は其方一其
舟其後

附 錄

書其同其後其其方其知也
其の同合其舟其其日其
其舟其後其其其其其後
其其其其其其其其其其

其八月十日 舟其其其

於他別百姓町人ホ欠居候一ツノ
有レ長五斗方ノ度宝曆二酉年
一箇鄉村法代友五人支取ニ由テ
寛永同九卯年四月和文子年ニ度法
年ノ支取也 仙傳法代友ノ一
引渡ニ由テ長五斗方五斗方
送テ有レ長五斗方ノ有レ長五斗方
御前也 二十日尋ニ度又二十日尋ニ度

百斗尋ニ度永尋於合ニ切尋方中ノ度
法代友中形五斗方法代友ノ旨法代書
中送テ有レ長五斗方支取ニ由テ長五斗方
振合ニ由テ長五斗方支取ニ由テ長五斗方
中料取テ振合ニ由テ長五斗方支取ニ由テ長五斗方
為長五斗方支取ニ由テ長五斗方支取ニ由テ長五斗方
書物ニ由テ長五斗方支取ニ由テ長五斗方支取ニ由テ長五斗方
朱印取テ長五斗方支取ニ由テ長五斗方支取ニ由テ長五斗方

前々二十日宛々尋一切中付不尋出
也其を尋中付並出との旨之上永
尋中付出定例有々二十日或々
百日尋中付或々之方中職者
私に俸俸勤矣仕出於法別是也
五年中付或々先年出候方より
引渡之旨は信託書之類と云々
来出候旨の何事も凡令書書同末也

官在者之末々二十日尋百尋止
印出科市振合々毎二十日宛々尋
一切中付不尋出候旨尋中付並出
之の旨之上永尋中付並出候旨
候々也

下札
申文智々一通々出候旨不尋出
永尋中付或々之旨尋中付並出

有るはるはる科又も急な成りあり
習ふ心ははるはる
はるはるはるの五年方はるはる科は
五年はるはるはるはるはるはるはる
五年方はるはるはるはるはるはるはる
はるはるはるはるはるはるはるはる
はるはるはるはるはるはるはるはる
はるはるはるはるはるはるはるはる

五月

文化元年
五月

一 京都町奉行組より同心地改
五月

南七月中
京都町奉行組より同心地改
五月

山水論有之是也為地改句多也
其成其元是也其地大極者也
其成其元是也其地大極者也
其成其元是也其地大極者也
其成其元是也其地大極者也
其成其元是也其地大極者也
其成其元是也其地大極者也
其成其元是也其地大極者也
其成其元是也其地大極者也
其成其元是也其地大極者也

山水論有之是也為地改句多也
其成其元是也其地大極者也
其成其元是也其地大極者也
其成其元是也其地大極者也
其成其元是也其地大極者也
其成其元是也其地大極者也
其成其元是也其地大極者也
其成其元是也其地大極者也
其成其元是也其地大極者也
其成其元是也其地大極者也

東代名地改爲仁言奉之有
与力出奉之六太所定下之能轉
得之代老一以之累奉之仁集子
出代名是出之海出代及代名是
以方之代名是之海出代及代名是

子八月

文化二五年庚

箱館奉行同

一箱館表出江並箱館奉行同

書局上上右海表館奉行同
江並箱館奉行同
五十二月廿六日 海定所一

此後再應殊深任氣放之性重其了性之
印也則書石名出是之幸也書以未
上之出法東南之科書之同合所
大科書之末上出法東南之夕也德未
車出法東南之先例書板正也
後之書之自名之圖書以之也
先例借德右之合之德也
之系入也

山後之江分中書後出法

五十一

[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]

久化之冥年出後

第箱表出後

六一箱表出江並刑名及有伴後

書中上古海表表表
正法後以名正法表表表
辛酉六月 伴表一經

箱表出江並刑名及有伴後

市中出江並刑名及有伴後
市中出江並刑名及有伴後
市中出江並刑名及有伴後
市中出江並刑名及有伴後
市中出江並刑名及有伴後
市中出江並刑名及有伴後
市中出江並刑名及有伴後
市中出江並刑名及有伴後
市中出江並刑名及有伴後
市中出江並刑名及有伴後

拂拭有之者第敘之箱籠市中抄
市中郷中拂之二刑刑名と附重
在國在府之言と梅白例未商
多之太之者合第敘市中拂市中
郷中拂市中出仕重中甘交事
新刑名と及出仕重中甘交事

中札
市文第敘市中拂之江戶拂出仕重
准一市中郷中拂之江戶十里四方

追叙出仕重准一也積重

出仕重中甘交重中在國在府例
有之梅場市未商及中抄
出仕重中甘交重中在國在府例
出仕重中甘交重中在國在府例
出仕重中甘交重中在國在府例

其九月

新嘗しとの共旅並難味味あめり
商人有彩宗因入不中候中三
右中と病九烟中同中自は後
了後也事取也

卯二月

[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]

文化正卯年也後

日光寺の烟

八 一日光寺坊家集以書方之後有淨後

鱗

附

書也淨後法中上は是日光
寺の正後後以方は淨子
承知法也
卯二月廿日 淨立也

書局以出言之煩常一也
本局所言正法後其亦知
外官之言 為揚揚行書

於日光表私撰味初有之官以市坊家來
支死向之其以市坊之族去九子年
十月高尾任智多親以市坊列今市坊
坊乘一併引合有市坊中人其即以此族
中上市下知所之以上野執南官事以上

市坊苗字居台以初之族在連以味仕
此仕在末同以族之出在石御紙右之在
之今日教在末以味も在石在仕族
奇迹去台のの出来之仕自石在席之
族も有之族在末以味も在石在仕族
苗字居支死之月一坊柴人其即抑者
之字死苗字居以族仕在末以味も在石
苗字居台之合以書在末以味も在石

尸上勿偏出仕重之及在國在仕
此九席也重之其故也上中坊家其
多之在家人之仕遠方因在國在
仕重之及在國在仕重之及在國
仕重之及在國在仕重之及在國
仕重之及在國在仕重之及在國
仕重之及在國在仕重之及在國
仕重之及在國在仕重之及在國
仕重之及在國在仕重之及在國
仕重之及在國在仕重之及在國

修之仕候在國也

仕候日光市坊家其味前有之
仕候日光市坊家其味前有之
仕候日光市坊家其味前有之
仕候日光市坊家其味前有之
仕候日光市坊家其味前有之
仕候日光市坊家其味前有之
仕候日光市坊家其味前有之
仕候日光市坊家其味前有之
仕候日光市坊家其味前有之
仕候日光市坊家其味前有之

卯六月

有る日長表のありともなきは元禄年中
次第に出来座三の法門令言此書
長を印重同後不及同因書社書
事連成如法住及古事及元禄年中
之印下在お尋ね事及元禄年中
尚年指上合言お尋ね事及元禄年中
後之印重同

以後日長表物家集心書及元禄年中

後之印重同上お尋ね事及元禄年中
此門令言入用種の上元お尋ね事及元
年印令下在りお尋ね事及元禄年中
之印重初心書及元禄年中
之印重同上お尋ね事及元禄年中

印九日

入用種の上元お尋ね事及元禄年中
お尋ね事及元禄年中
お尋ね事及元禄年中
お尋ね事及元禄年中

玄卯二月以法書丹正信後日有津島
秀引合しものたお合味は一件し
之のを正は重すお同とまらぬ津島
依石系在之節七揚中務出候事候所
根主人候百程を借債お能事候
能者居之節出候友事と未後文も
手出はゆれ根事と九智後事有馬
右書作事来今井貴之節お對候

今之信九指并中務出候事と未後書
殊判し候久之入根事後九在事候
越前事方と勿備材方事も在事
依石在事方は上座代官前古右記事
細方と依事和事出候事と未後事
お同向しと未後事候と在事と未後
之節古同出候事と在事と未後事
下座代官出候事と未後事と未後

一
令百七拾五
浪口貫目

右令浪庄在帝代官下。在島津領分
百陸連判。同人家來。妻有。院文
正。以。人。年。上。借。債。在。法。寺。取。去。五。年。太
令。浪。返。納。未。以。以。款。及。取。納。年。書。院。官。
貸。借。未。以。以。後。亦。書。去。取。之。帝。津。在。島
主。印。之。書。の。共。の。与。虚。債。之。以。世。任。未。納

右借文令浪庄在帝代官下。在島津領分
百陸連判。同人家來。妻有。院文
正。以。人。年。上。借。債。在。法。寺。取。去。五。年。太
令。浪。返。納。未。以。以。款。及。取。納。年。書。院。官。
貸。借。未。以。以。後。亦。書。去。取。之。帝。津。在。島
主。印。之。書。の。共。の。与。虚。債。之。以。世。任。未。納

左側之戸

此後仙石職宗之子家康而山内清康之族
有馬左衛門家康今并其族宗氏
相對之上代家康宗氏前以左衛門
合借勢之積内清康一左衛門清康
入用此内之記宗氏之族宗氏
此宗氏左衛門清康之族宗氏之族
左衛門清康之族宗氏之族宗氏

亦有之宗氏之族宗氏之族宗氏
宗氏之族宗氏之族宗氏之族宗氏
此宗氏之族宗氏之族宗氏之族宗氏
宗氏之族宗氏之族宗氏之族宗氏
宗氏之族宗氏之族宗氏之族宗氏
宗氏之族宗氏之族宗氏之族宗氏
宗氏之族宗氏之族宗氏之族宗氏
宗氏之族宗氏之族宗氏之族宗氏

一 借入費目

外幣利息銀金等 百圓余

右記の中勢込代金市方左属依銀金
先年古借積金等古紙金目銀金等
銀金古借積金等古紙金目銀金等
之即之等の古古虚積金等世活相積
借入金等之月之割存りも古紙金目
積金古積金等古紙金目銀金等

貸借之銀金等古紙金目銀金等
左属依銀金等古紙金目銀金等
之即之等の古古虚積金等世活相積
借入金等之月之割存りも古紙金目
積金古積金等古紙金目銀金等

戸橋右代左衛門右衛門
為右代左衛門右衛門
貸度有之月并兼之
以之重山通借借記
或也百目之洋書
房合平糶の海流右
入月記の月記
百姓并借借減を
百姓并借借減を

百姓并借借減を
百姓并借借減を
百姓并借借減を
百姓并借借減を
百姓并借借減を
百姓并借借減を
百姓并借借減を
百姓并借借減を
百姓并借借減を
百姓并借借減を

上納言の儀は未だ毎々御座候所不承
悉程日記の儀は御座候所不承
と申す是れ御座候所不承
以味申す奉取置候所不承
此中務出候所不承
此中上納言の儀は御座候所不承
之儀は御座候所不承
之儀は御座候所不承
之儀は御座候所不承

之儀は御座候所不承
此中務出候所不承
此中上納言の儀は御座候所不承
之儀は御座候所不承
之儀は御座候所不承
之儀は御座候所不承
之儀は御座候所不承
之儀は御座候所不承

此中務出候所不承
此中上納言の儀は御座候所不承
之儀は御座候所不承

辰巳六月

附 籍

此書為...
辰巳六月 辰巳六月

和人物

八月廿二日

阿波橋摩書

仙石誠重...
於其地借用...
此江...
其表...
其...
則以附札...

八月廿二日

連石

阿波橋摩書

附札

書向百姓達判家来要平院文あり
有之上上在書体より年納
張る云々者大由金附合年奉
中より主信借文在在りも又
返納しりりも在書体在書体
店之部方より之由下有る者
家来上を展下年納り心持

同書五箇方たてく

附札

書向之紙或も百目を在之紙
在書体方より之由下有る者
方より在書体紙中より百目を
其印より之由下有る者
お成紙あり上平部より之由

上ノ返網不及積リ心為其細書
五網の方なき

[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]

文化六年庚辰

松前奉行宛

拾一 松前所番詰所。出火し了り候事
之候事候様

苗七月九日退後。松前所及宅持内
出番詰所。出火し了り候事。松前所
上番書。一候。此所及宅。内候後。外

此書後有... 職人... 是... 此書後
可... 此書後... 元... 格... 嚴...
... 細... 揚... 一切... 大... 重...
... 不... 中... 及... 人... 元... 內... 間...
... 寬... 補... 理... 大... 工... 人... 是... 每... 南... 系... 休... 良... 也...
... 元... 中... 處... 上... 同... 是... 紙... 煙... 亭... 上... 卷... 出... 大... 之...
... 人... 是... 并... 棟... 梁... 其... 也... 者... 是... 中... 後... 東... 南... 之... 月...

... 例... 每... 大... 工... 人... 是... 其... 初... 文... 府... 出... 書... 後...
... 而... 上... 終... 者... 乃... 七... 兩... 在... 江... 岸... 門... 拂... 也... 有... 組...
... 同... 心... 亦... 重... 後... 是... 乃... 國... 公... 義... 之... 席... 後... 元... 中... 卷...
... 寬... 之... 中... 火... 上... 少... 後... 為... 清... 海... 古... 水... 上... 卷... 終...
... 志... 可... 了... 是... 乃... 七... 兩... 大... 工... 人... 是... 其... 初... 文... 府... 出... 書... 後...
... 門... 在... 山... 後... 中... 書... 後... 是... 乃... 國... 公... 義... 之... 席... 後... 元... 中... 卷...
... 支... 既... 彌... 及... 垂... 去... 田... 產... 而... 出... 院... 乃... 出... 院... 及...
... 竹... 內... 亦... 所... 由... 在... 任... 水... 各... 處... 中... 節... 政... 之... 後...

元中屋合口一切一因門九日後同言其
出火口一而一而烈來及進之難得肉
之其子大之入指其少度場未燃片大
後其市之從之表介不中其切九万一元
少度電之失年其少度居風烈之言死教
出火口一而一而烈來及進之難得肉
其市之從之表介不中其切九万一元
少度電之失年其少度居風烈之言死教
出火口一而一而烈來及進之難得肉

後之不意一而一而烈來及進之難得肉
其市之從之表介不中其切九万一元
少度電之失年其少度居風烈之言死教
出火口一而一而烈來及進之難得肉
其市之從之表介不中其切九万一元
少度電之失年其少度居風烈之言死教
出火口一而一而烈來及進之難得肉

院寺も各軒車は経路に在りて
内棟は其を云く長屋を印門と稱す
又その北に舟停後には平日出役宅
梅内大元前務方と成りては
このもて有るは山崎と云ふ徳子に人
并表門青人お門は海田書信不元
お成り大元前務方の云はれ有る
此を云ふ内大元前務方と云ふは

大元前務方は場末一系敷と云ふは
其は大元前務方の云はれ有る
院寺も各軒車は経路に在りて
内棟は其を云く長屋を印門と稱す
又その北に舟停後には平日出役宅
梅内大元前務方と成りては
このもて有るは山崎と云ふ徳子に人
并表門青人お門は海田書信不元
お成り大元前務方の云はれ有る
此を云ふ内大元前務方と云ふは

車馬等之類也。此法有之。今之
五綱。市上者。相承。其法。以
此。味。書。之。出。名。所。之。出。之。法。也。
己九月

[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]

文化七年年慶
相承の者也

拾一 丹後國等樂寺村多古道ノ変死一件
吟味ニ後有評儀

私殿分丹後国官律等樂寺村瑞御城
百姓多古道ノ事ノ評儀。此。評。儀。南。年。程。定
在。此。七。八。年。以。前。分。石。攝。言。付。之。事。也。

前以不熟令... 爲... 追... 不... 仁... 細... 非... 因...
前以不熟令... 爲... 追... 不... 仁... 細... 非... 因...
前以不熟令... 爲... 追... 不... 仁... 細... 非... 因...
前以不熟令... 爲... 追... 不... 仁... 細... 非... 因...
前以不熟令... 爲... 追... 不... 仁... 細... 非... 因...
前以不熟令... 爲... 追... 不... 仁... 細... 非... 因...
前以不熟令... 爲... 追... 不... 仁... 細... 非... 因...
前以不熟令... 爲... 追... 不... 仁... 細... 非... 因...
前以不熟令... 爲... 追... 不... 仁... 細... 非... 因...
前以不熟令... 爲... 追... 不... 仁... 細... 非... 因...

本切亦... 立... 爲... 倒... 在... 休... 彼... 貞...
本切亦... 立... 爲... 倒... 在... 休... 彼... 貞...
本切亦... 立... 爲... 倒... 在... 休... 彼... 貞...
本切亦... 立... 爲... 倒... 在... 休... 彼... 貞...
本切亦... 立... 爲... 倒... 在... 休... 彼... 貞...
本切亦... 立... 爲... 倒... 在... 休... 彼... 貞...
本切亦... 立... 爲... 倒... 在... 休... 彼... 貞...
本切亦... 立... 爲... 倒... 在... 休... 彼... 貞...
本切亦... 立... 爲... 倒... 在... 休... 彼... 貞...
本切亦... 立... 爲... 倒... 在... 休... 彼... 貞...

不乃之能我反抱は初回村場裁百姓
字平と中とのも余り合得て反抱は
療書は不吉唐お果中の將依成帝後回
至前此六回而之善事細工仕在多在處の夏
死にきしと何方に能裁裁不お見天祥
おと不知る多在處の候もも底交お果妻
とる候は何と申す事しおと不克而死
は投付む何と申す仕業の候おと不克

不乃之能我反抱は初回村場裁百姓
字平と中とのも余り合得て反抱は
療書は不吉唐お果中の將依成帝後回
至前此六回而之善事細工仕在多在處の夏
死にきしと何方に能裁裁不お見天祥
おと不知る多在處の候もも底交お果妻
とる候は何と申す事しおと不克而死
は投付む何と申す仕業の候おと不克

与成亦与一向不向中出得律律代律代
至家之与多在身一日在宅前庭与细之
仕多与在身爰死仕信初不任在在在在
院法投分与在律代律代律代律代律代
觉与方若同人仕業与与有律代律代律代
以与言律代律代律代律代律代律代律代
律代律代律代律代律代律代律代律代律代
律代律代律代律代律代律代律代律代律代

有律代律代人爰重年味爰爰爰爰爰爰不
便与高前書律代律代律代律代律代律代
与律代律代人爰与律代律代律代律代律代
律代律代律代律代律代律代律代律代律代
律代律代律代律代律代律代律代律代律代
律代律代律代律代律代律代律代律代律代
律代律代律代律代律代律代律代律代律代
律代律代律代律代律代律代律代律代律代
律代律代律代律代律代律代律代律代律代

遠く海の中を居る如く海を去る中
變死と肉の如く死す事と此後
不慮の事以味文章中投得入
人為常不居居る處早書居居
得今尤再意者表以味此居大
中如法代居居居居居居居居
之印子國生居居居居居居居
此居居居居居居居居居居居

之の如く法代居居居居居居居
居居居居居居居居居居居居
居居居居居居居居居居居居
居居居居居居居居居居居居
居居居居居居居居居居居居
居居居居居居居居居居居居
居居居居居居居居居居居居
居居居居居居居居居居居居
居居居居居居居居居居居居
居居居居居居居居居居居居
居居居居居居居居居居居居
居居居居居居居居居居居居

此居居居居居居居居居居居

此後多事... 妾死... 姑乘輝... 仕業... 尤苦... 於又... 那... 有... 再... 進...

此... 仕業... 仕業... 仕業...

仕業... 仕業...

三... 仕業... 仕業... 仕業...

文正七年年表後

大内府御成敗

後多正長建の月

十三 一人打くもの出は至所より上り後方

後多正長建

尚書

飛

右の所方日雇ひつゝ初不斗

忍心能く使ひて今令後後五進い

不斗もい様は後不唐舟入書上教

但名市本所上門後

は後五進く令後お及もをあ

三舟使えりる五進つゝの所の所定

足合用と進入書上教を

後和はものとの所の市本所と

所定も不斗と出書舟の

書の何れに在るは其の
中を記す

東二月十日 荒尾 徳吉

去る去年戸川様と羽太安藤とが
事以勅使申され罷出仕に在りし
書角の内退散との申揚り候
事此後申書角の類と心得
同令仕候様矣其卯他國との事

松平の内書事
之國并米額松平との申揚り又
松平の内書仕候書事云々の事
西の事なるに於て松平科
中付の事なるに於て國
日下附村との申揚り
此後同との申揚り有

此長河之上及接授之類一唯一月之內
在凡均常一各正此後之御記事也
年十月

此長河之上及接授之類一唯一月之內
在凡均常一各正此後之御記事也
年十月

文化七年辛申度
大府登補改

大府登補改

十六
一 登補門合湯屋系湯番出皆有之
件儀

苗八月三日降儀以下一市上言此後在度
此後大府登補改在國分年也水在所
傳為店城吉母之御記事也一件出仕也

同書一強在体机右くあ後牛込水在所家更
湯屋た湯屋同所湯屋長世所方と居城
屋く強く一強く有くた湯屋長世所と
お乳お乳正世所居素あお物おく先
中口と存念在体機朱書の中と上ととと
前書あ人あ湯書くこの心付方おは
石坊く強くあを以強強と一既く列紙
再付も有く田中と強くあおく一湯屋

茶湯書くこの出書付来あ後方と
右出書不中付り多と一車あ強くあ
不之強くあ長世所と勿強湯書
この心付方おは強強同書
お強不中お強と強強と強強と

年九月

例

牧野傳重書度出左系

文化文辰年

振冠死重書裁

中武下目

家主湯屋

中書湯屋

次左傳

右主人

中書傳

十石門前坂形所

家主湯屋

新助

因事律志寺門所

家主湯屋

吉傳

右...の...湯入...の...
左...の...未...
右...の...湯入...の...
左...の...未...
右...の...湯入...の...
左...の...未...

陽入今之の歌々音變とて陽上元並
上南とあり彩物を名爲も心付方等閑
扱入湯とて紙とての衣類を音始末
とて成り候事音傳の事多し中付方
不引而扱之候一同不持音急度叱

右儀外音

右書及字の事法同底傳の所事以て良

何と上書等中付元假因所法中在陽上
洋書古往新入候由所之者假入尾上
周音假中音傳と紀も不持十六音中
相と撥お撥り扱同人印湯入とて入
音音大小在教中印不持とて音速
迹去及仕候候音傳音傳とて音傳
音と不持音急度叱音傳例とて音傳
心付音急中付音不引而扱之候音傳

了後我之度先年書中上表如後方之
前之湯屋每湯着之もの出立を不細
お海の事及今一應存候之し上書
此所書の中先例表札紙様寺引合
候故に前書之石分有由今一由往來之
存候仕向候とお表出候上書方を遠山
中府内家續之場市之引合候上表引
有之由書之向之書中表紙様紙有之

此等直書とお取所書引合之執お通
と書取向書候令是述由書中書引合
今般お改は取之件も勿論並湯屋
英湯着之もの不意に取書吟味候向
書上紙入之取向方此所書引合之件
書取向

年十月

存候之海候

文化七年庚辰

中勘定書

松平右衛門

十一

飛列坊方村在舊人ノ敷上出来心言
監了ノ山出仕金ノ後并門也ノ執念
中身ノ執件候

松平右衛門在旧飛列坊方村在舊

出仕金ノ後借候ニ遊女物言御付也
之御定ニ人合申不直也并門也
死罪ニ在旧坊方一御門也
法人ノ遺ニ在也
遊門也
浮揚也
は後於申出仕金ノ足懸
晒其印死懸之晒

了庵寛政八年春塙入大之部大尉登城
改之志は在河内池之瑞伴所平為將
仁之部候者若御中為弟松よりたる方は
幾書老しは松中右左衛門左衛門守
下書於一印方返書恐世其石巻下左衛
殿より一守守候し一應守中と存候如
為松一途之實奉と存候と云方松
守守と連之返候又の目人

美又之方門頼之左衛門右衛門
連系り是方より九斗其石松中守
右御實奉と一途之返候と戲
中守守と連候と合守守守守
同方守守守守守守守守守守
守守守守守守守守守守守守
守守守守守守守守守守守守
守守守守守守守守守守守守
守守守守守守守守守守守守
守守守守守守守守守守守守

自撰る方教懐中へ紙入の鼻紙袋
奪九七鼻紙袋を撰紙入を撰
此後不存の極有田中引早へ上
撰つと相同一産降候と云ふ政高兼和と
教書との六書在候は兼和と教書懐中
へ合ふ奪九七を撰りて人々教書懐中
へ之の所定産一同海門早へ上
撰つと上を海門例も此産方産書

後引早へ上撰つと引早は此後不存
かまふ

寺社書引
町書引

此引坊方村在書出仕五へ後撰候
又此引産書との所定九合不存

此方門戶一上死物之在何處并
此書之在何處一在何處之在何處并
信之門戶一在何處之在何處并
可有此在何處之在何處之在何處并
常列中西村法在何處之在何處并
寺合海法在何處之在何處之在何處并
地之在何處之在何處之在何處并
中西村法在何處之在何處之在何處并

送振之在何處之在何處之在何處并
法在何處之在何處之在何處之在何處并
何國事有之在何處之在何處之在何處并
字形之在何處之在何處之在何處之在何處并
吾國之在何處之在何處之在何處之在何處并
之在何處之在何處之在何處之在何處并
此在何處之在何處之在何處之在何處并
文之在何處之在何處之在何處之在何處并

因村大徳也高日暴是又高紙と等して
仁業と云ふ事也此罪成を自由と
送帳下積り巧成年々石鹿を核且
神多孝俊の法左邊の上巻邊
平形有る白紙と法左邊の方巻邊
法左邊の印中巻年貢法左巻殊書
及左巻巧成仕形出巻石鹿合列
石鹿有る人其門上法左邊

獄門神文書を死罪中其門上巻
之巻は法左巻と有る右巻左巻を
殊書又巻殊判りたる此の所定は
門上巻上獄門の巻神文書は右巻
但書加判人死罪の所定は右巻の
相合巻出巻石鹿合列石鹿を核且
門上巻上死罪中其門上巻を毎
石鹿合列有る此巻上巻獄門巻

中勅定事以

例

寛政三亥年出度

大附出藏及

長谷門平氣烟

一谷巾金扇寺門家平氣馬の店合意
不申之九年為山一件

谷巾金扇寺門家

平氣馬の店

合意

右の成信之書に在りしもの
中平ノ別合口門為成行垣と云ふ哉
運入毛纏紐柄は高馬丸常拂配為
手の上置物と云ふ所も高拂是礼物
世より大合紙柄と云ふ所酒合口毛纏

不修其死罪

此後定書之近難也之取也死之
以之文之礼余亦亦南人之德也
後人人全死罪之有之信人二也之
正也也書其之人也也進之也也
之人也也也也也也也也也也也
不不不不不不不不不不不不不不

安永五年十月

板倉清波子殿也系 浮定之筆 大田掃磨書

一 誠後國士地飛新田仙若帝相子同家法
新田子兩人較出入以味一併

海江正脈正脈

誠後國士地飛新田仙若帝相子同家法

百姓子物

右の如くは難解く女房の如く及
不法の中へ身を捨てて今の子
僧侶と云ふは此の如く細く教
不唐舟の如く上死罪

此は五海

右所定書あるは僧侶の如く
此の未唐舟の人と云ふは又
此の中道及又云ふは死罪

有る女房の如くは教の右組書
此の如くは上死罪

天明元五年十月

久世大和守殿

此は五海

素直信縁

一 根別地廻村書
此の如くは一件

石巻信縁

一長崎車形水野美穂吉の家来佐友
万石箱格文書一件

長崎車形

水野美穂吉の家来

佐友万石

右...の儀之人水野美穂吉の家来吉勤
中因市目安方お勤以律物九段尚浦上
村形室門一件彦平人冬之目出入

紅毛摺文書和解お遠以味...
形之積因形所人...
其更...
右...
親父...
為...
始末...
右...
上御門

右...
上御門

右京保十箇年十月大國領事官例上
此は至平自山出劫定事以久松大和智事
松山依改集卯寺人後松山後河原也
より或列後本村出た後と此れ全を
百姓戸定程又程利高に於て
も全を百戸及不使有死罷り自例も
有る是れ万為後後後令之百也
此は隆文と大和屋を八と中右南坂の

後田為和事り教書大和事りとの有るも
不取紀院文又文又依後文又通り方と
大和屋を八と中右の五枚為替金と
此れ中誠為五斗の成る大和屋のとの
今も上も全保書と難中も此れ何事も
五枚の院文を今も上人と採又又文又
不取の成高五斗難後と不取始末を
重く不取言例より控別不重く此れ

重なり目人乱心言をり大難と及殺害を
身も殺死しつる御之に及長遠首に
縄とを門倒り始末不届に極刑に
之と獄の

右儀は書附

右更者も御心言をり押る不為に
その死罪を所定言けりとの押る密云
中を得心不仕は違ふつと及殺害は

後難と可道と大難と切殺刺交を爲
きも大殺後死に神可致し目人首に
縄とを門倒り候自りある可
形と所入も人切殺りとの獄つ
所定とも及合別る事不違者門也と上
獄門

中書丸

死例坊方村に在る事不違候事

ゆゑのと教のまゝより盗すねたあふまゝ
若人の教盗つてゆゑの所定も
雖も南僧尼の違ふお言ふ府付者死
罪の有は僧尼政しゆゑのと教ゆゑの
所定もまゝゆゑの缺つと甘んぢり
教を寺社奉行所まゝの事
ゆゑのまゝゆゑの事
う前段の事

文化八年庚申

出勘定書

松平左衛門

十七 密書に云相違お言ふゆゑの
ゆゑの事

去り十月晦日庚申
西原惣右衛門

因取石田ヶ谷村百坪唯七奉甚高殿と
中三石出若所物之類之たふ出代女
中後風吹高水乳所物之類之たふ遠
おまの流を以て甚高村方石田合平
家之石清為お探石田合平二月同村
本高殿の甚高とおまの石方及び所
右所物之類を本高殿の女房にせし甚高
悉毎之上流門出女入た石清にお知事

甚高と兄高の方中三石の子建高
石捕入平中石出若所物之類之たふ
出所之類を以て合平のたふおま
亦合高味仕所人と集高妻と後世
因石のたふと石田合平のたふ
止石高殿合平押借所中おまの娘と
流門出の賣女といふ或る人女房と
連高の流門出のたふと流門出のたふ

正徳五年戊辰春一旦龍孫叔未海
山積長谷處日平合世其為方因於山村
修湊金龍院お札又も因於加那傍村
庄寄置方口子世と龍孫叔未海と方
中し山積長谷金龍院と札も金龍院
山積龍孫叔未海と家未遠お札也と
西事いし山積一向寺名中流の舟
再應教友龍孫叔未海と家二月四日

牢屋敷龍孫叔未海一旦龍孫叔未海
於又山積長谷是處龍孫叔未海
中付り山積長谷御田未とおく龍孫叔未海
そのたも合おり山積長谷御田未とおく
し山積長谷は龍孫叔未海と家未遠
車も山積長谷御田未とおく龍孫叔未海
立海山積長谷御田未とおく龍孫叔未海
家未遠御田未とおく龍孫叔未海

此項書以味五字より分るる字七ヶ年
本如傳際限も重なる有る勘弁
仕所定書之流例書之内列
青梅村平宿女房少之文成平宿庄家
清八と家毎有る由言平宿法八と
切敷に少くも少宿為宿有る
考案と原宿の平宿も字死に
家毎と原宿と白物も不詳也

家毎も有る類と本宿も有る之類類
形々押込並宿言甘物と本宿原宿
種遺教と有る尤も女と及種宿
平宿無家史と由本宿法八も本果
宿之類に付るも長宿女房と世人
以傳も不詳本果及宿と云ふ由
家毎の「」の妻男も死宿と所定有
家毎と科言死宿と南の宿

白州縣志を因りて市河の方右側を合
以て其甚三層及上り尚も塞堵無有
以て山方を重くして石版を中道敷
お由り山麓に於て石版を中道敷
せし之は山との故也罷お由り一
程く言ふ所多し所定言中道敷
一程く言ふ所多し所定言中道敷
十里四方道敷正 俗言の上作別と水碓

人足とて五里を計五年の方は有る
是迄の味多間九の色たつては
始末の上白州の期お元古市
山方を重くして

は海を重くして山の方右側を合
石版を中道敷にして山方を重く
以て山方を重くして山の方右側を合
大府に於て國に被傳書傳判と有

別帳中後述の依列に先書ありて
酒類中付立本取付くとの事取
係し何れも古心乃けし書紙科書
等五種於本内取付後三種
取付

末八月

俸後海無

文化九年 松平恒昌殿 申書 九日後

十八 本日も俸一筆 申書 申書 俸後

俸後

申書 申書 九日後 申書 申書 申書
申書 申書 申書 申書 申書 申書
申書 申書 申書 申書 申書 申書
申書 申書 申書 申書 申書 申書
申書 申書 申書 申書 申書 申書

酉

[Faint, illegible handwritten text]

文化十周年

松本市

十九 松本市表公事

私に及ぶ人宛に松本市立勤行に在り及ぶ
勿論に及ぶ迄に在り及ぶ若し臨時に及ぶ
每人に在り及ぶに及ぶに及ぶに及ぶに及ぶ
此に及ぶ一件に及ぶに及ぶに及ぶに及ぶ

中彼のりて至年出仕並く多し何れ上
部と私共と平物と此等及及是島流地
相のりて居る為中後少私丁仕邦右振合
公事方出勘定事以上同右此等事
至年出仕並く多し何れ上
部と私共と平物と此等及及是島流地
相のりて居る為中後少私丁仕邦右振合
公事方出勘定事以上同右此等事

及至是年被城ありて高下後出及有
此年中彼のりて多し何れ上
部と私共と平物と此等及及是島流地
相のりて居る為中後少私丁仕邦右振合
公事方出勘定事以上同右此等事

市物と云ふ是等仕立物丁仕立事取付候
仕度事同也

仕度事同也
仕度事同也
仕度事同也
仕度事同也
仕度事同也
仕度事同也
仕度事同也
仕度事同也
仕度事同也
仕度事同也

有之仕立事表も事取付仕立事取付
仕立事取付仕立事取付仕立事取付
仕立事取付仕立事取付仕立事取付
仕立事取付仕立事取付仕立事取付
仕立事取付仕立事取付仕立事取付
仕立事取付仕立事取付仕立事取付
仕立事取付仕立事取付仕立事取付
仕立事取付仕立事取付仕立事取付
仕立事取付仕立事取付仕立事取付
仕立事取付仕立事取付仕立事取付

明初一歲忘中後居休養之役
有之歸格別里殺中滿日之言
松前在江戶勤中一處之是也
明初一歲忘中後居休養之役
明初一歲忘中

酉正月

去月十官休養休中上言松前在江戶勤
松前在江戶勤中上言松前在江戶勤

文死以味及味之
松前在江戶勤中上言松前在江戶勤
今一應休養中上言松前在江戶勤
松前在江戶勤中上言松前在江戶勤
松前在江戶勤中上言松前在江戶勤
松前在江戶勤中上言松前在江戶勤
松前在江戶勤中上言松前在江戶勤
松前在江戶勤中上言松前在江戶勤
松前在江戶勤中上言松前在江戶勤
松前在江戶勤中上言松前在江戶勤

不亦元元在國歷代友公事出入以味也
出代友言以味也一以書是而九獨之
雖亦以友有之也其以味也一也其
事以言以味也一也其以味也一也
今之教之也至乎此也其以味也一也
其以味也一也其以味也一也其以味也一也
其以味也一也其以味也一也其以味也一也
其以味也一也其以味也一也其以味也一也
其以味也一也其以味也一也其以味也一也

何之上之也其以味也一也其以味也一也
其以味也一也其以味也一也其以味也一也
其以味也一也其以味也一也其以味也一也
其以味也一也其以味也一也其以味也一也
其以味也一也其以味也一也其以味也一也
其以味也一也其以味也一也其以味也一也
其以味也一也其以味也一也其以味也一也
其以味也一也其以味也一也其以味也一也
其以味也一也其以味也一也其以味也一也
其以味也一也其以味也一也其以味也一也

松前守事の支取地は後百石事
安永吟味物事事の事
下事勿論有るは御前
隔山揚前守事吟味物事何所
時正事吟味物事主裁事の上事
事吟味物事吟味物事吟味物事
事吟味物事吟味物事吟味物事
事吟味物事吟味物事吟味物事
事吟味物事吟味物事吟味物事

事人死に被死在勤事
事由入吟味物事吟味物事
事吟味物事吟味物事吟味物事
事吟味物事吟味物事吟味物事
事吟味物事吟味物事吟味物事
事吟味物事吟味物事吟味物事
事吟味物事吟味物事吟味物事
事吟味物事吟味物事吟味物事
事吟味物事吟味物事吟味物事
事吟味物事吟味物事吟味物事

西月

松平表公奉出入後中後方後舟
松平表公奉出入後中後方後舟
松平表公奉出入後中後方後舟
松平表公奉出入後中後方後舟
松平表公奉出入後中後方後舟
松平表公奉出入後中後方後舟
松平表公奉出入後中後方後舟
松平表公奉出入後中後方後舟
松平表公奉出入後中後方後舟
松平表公奉出入後中後方後舟

松平表公奉出入後中後方後舟
松平表公奉出入後中後方後舟
松平表公奉出入後中後方後舟
松平表公奉出入後中後方後舟
松平表公奉出入後中後方後舟
松平表公奉出入後中後方後舟
松平表公奉出入後中後方後舟
松平表公奉出入後中後方後舟
松平表公奉出入後中後方後舟
松平表公奉出入後中後方後舟

下も勿論此社也柳之後
満山若鏡より時を吟味仕りも行
舟野幸後より平家より一もの表
及吟味高仕りも格別じり
後者大も全内仕りも平家
将平奉事も後者も後者も
吟味も後者も後者も後者も
松平表公奉出入後中後方後舟

彼地仕來子有... 將... 後... 中... 長... 事...

酉三月

Faint bleed-through text from the reverse side of the page.

一... 策... 乃... 至... 將... 不... 了... 一...

吟味との落意ともそとに
唐字の上吟味行高九平三平

[Faint, illegible handwritten text]

